

学・高校生に対して配布しているリーフレットや『性の辞典』を通じた間接的な対策を行うのが限界である。

都市都会においては、地方郊外以上に保護者全体を巻き込んだ対策は難しい。

しかし、今回明らかになった保護者達の不安は、多くは（自らもきちんとした性教育を受けてこなかったことを遠因とする）本人たちの知識不足から来るものであり、こうした知識に関しては、組織的に提供することが可能であり、また、そうしたことを行うのが望ましい。

平成 19 年の「新健康フロンティア戦略」において目標の一つとされた家庭力の向上のためには、地域・学校・家庭のあり方を見直す必要があるが、まず行うことが可能な対策として、3 つの方法を提案する。

一つ目は保護者全体への対策である。先に述べたように保護者全体を巻き込むことは都市都会においては特に難しい。

しかし、三者面談や入学式等保護者が学校に来る機会を利用しての保護者向けの講演や、子どもへの性教育や生き方教育と同時に親子のコミュニケーションやリーフレットを通じての保護者向けの教育は定期的に行われる必要がある。

子どもへの早期からの性教育に対しては反発が大きいですが、一方で概して保護者の意識は出産前後をピークとして子どもの成長とコミュニケーションの難しさに直面するにつれて低下する傾向がある。そこで、周産期からの一貫した保護者向け講習等の事業の重要性は高い。

これらの対策を効果的に実施するためには、教育機関・医療機関・行政の密な

連携が必要とされる。それぞれが相手に責任を押し付けるのではなく、真の意味での協働を果たすためにも、別途提示する支援ツールや、他の自治体の成功事例からの学びが必要となるであろう。特に成功事例の共有という意味においてもメディアの有効活用が重要となると思われる。

二つ目は、リスクの高い層への対策である。多くの自治体関係者や研究者はこの部分に特に苦心しているものと考えられる。家庭環境に関しては、北村邦夫らによると「親との会話」「親の厳しさ、監視、つながり感・サポート」が性行動に直結するとされるという、本研究結果と同様の結果が示されている。しかし、思春期以前の生育環境や、家庭の収入などの社会的要因に関しては関与が示唆されているものの十分なエビデンスは存在しない。そのため、エビデンスに基づいてリスク家庭を抽出し、その保護者への対策をとることは非常に困難となっている。そこで、今後の課題としてデータを収集してエビデンスを確立していくとともに、地域全体での取り組みとして、リスク層への対応を行うことが望まれる。

最後に、今回のシンポジウムや、従来の思春期保健事業で積極的に参加するような意識の高い層の活用である。

PTA 連絡協議会等を通じて、定期的に彼らの家庭力向上につながるような講演会・ワークショップ等を実施すると同時に、彼らが力となって、学校や地域に働きかけることで、前記リスク層の巻き込みや、比較的非協力的な学校等の協力を可能とし、地域力の向上につながるもの

と考える。

【図 E.1.1 :保護者向け事業の具体的方策】

### 1.3. 性感染症教育

性感染症教育は、避妊教育を中心とした性教育と比して、学校関係者からの抵抗の少なく、医療関係者の問題意識も大きい。特に、エイズ教育に関しては、教育現場においても必要性の認知は十分に高まっている。

木原雅子らによる長崎県の性感染症対策キャンペーンや神奈川県のエイズ対策キャンペーンなど、いくつかのキャンペーン型の対策の成果が示されており、釧路市の成功要因もこうしたキャンペーン型介入による空気の醸成による部分があるといわれる。

そこで、HIV/AIDS キャンペーンを中心として、医療関係者の協力のもと、学校現場その他において性感染症教育を推進し、その効果の評価を行うことが望まれる。

なお、今回の本研究においては、性行動の結果としての望まない妊娠・人工妊娠中絶に焦点を置いたが、同様に性感染症につながる性行動の体系的調査を行うことも重要である。

### 1.4. デート・性交渉場所への対策

釧路市の場合と同様に、デート・性交渉場所への対策は関係多機関での問題意識の共有の段階から大きな困難が生じる。しかし、公園の設計や、ラブホテルの規制等、行政が主体的に行動すれば用意に

改善する部分も大きく、また、従来型の性教育では巻き込むことが不可能であったような、まちづくりに関係する NPO 等より幅広い人間の関与が求められるため、地域全体での取り組みとして、医療や教育の一部の専門家だけに任せるのではない問題として取り扱うことが可能となる。その結果、先に述べたような保護者向けの対策や、性感染症教育も、より立体的な取り組みとなる。

こうした場所に関する対策を実現するためには、まずは、重点的に取り組むモデル地域を策定し、幅広いステークホルダーの巻き込みが可能なコーディネーターを育成・支援することが必要となるであろう。

## 2. 中間地域の場合の対策

中間地域の場合は上記、地方郊外ならびに都市都会の問題と対策を踏まえて、その地域の現状に合わせた対策を立てる必要がある。その際には、本研究における政令指定都市・3 大都市圏を利用した分け方以外にも、自治体の人口、人口密度、近郊の都市からの交通のアクセス等を勘案し、同時に地域住民のニーズを確認した上での対策立案・実施が望ましい。

今回は、中間地域のモデルとして、千葉県八千代市を用いた。八千代市は都心からのアクセスという面においては十分に都市都会と呼べる一方で、人口規模や市の状況としては、地方郊外と同様の問題も持っている。

そのため、釧路市と同様に市単位での、多機関協働の体制作りが可能であり、現実ネットワーク作りが進みつつあるが、

本研究における都市都会・地方郊外双方の問題のうち、より地域の実情に合った問題を発見し、解決していく必要がある。

今回は、時間も無いため、地域の実情に即した体系的なデータ収集を行うことはできなかったが、釧路市の成功事例の共有及び、多機関協働の支援を行ったことで、千葉市以上の思春期保健事業の推進が現在見込まれている。今後はさらに、八千代市の事例をモデルとして千葉県全体に成果が還元されることが期待される。

このように、全国的なモデル地域の設定と同時に、その後の都道府県全体での医療計画等との調和を図ることが、都道府県の役割として求められる。

### 3. 全国共通の問題点・対策案

これまで地域差に着目した研究はほとんどなされていない。その結果、多くの研究は都市都会を中心にモデルが作られている。そこで、北村邦夫らが指摘するような、中絶経験者の3割程度存在するといわれるリピーターへの対策や松浦賢長らが提案するカフェテリア方式の性教育、木原雅子らの提唱するWYSH教育その他有用と考えられる対策に関して、都市都会を中心に地域的条件を揃えた上でモデル事業の実施と効果検証を行い、本研究班が提案する対策も含めて、全国各自治体に成功事例の蓄積と共有を図ることが望まれる。

また、特に、千葉市におけるパイロットスタディを通じて繰り返し聞かれたのは、現場の無力感や閉塞感であり、それらを打破するためのリーダーシップの不在や多機関の連携の力不足である。こう

した状況は多くの自治体に共通して存在すると考えられ、その対策のためにも、多機関協働のコーディネーターの育成並びに全国における成功事例の共有を中心とした地域毎のデータの有効活用が強く求められる。

## F. 結論

平成18年度の全国調査の結果、「非避妊換算性交渉回数」の減少のためには、都市都会においては「性交渉人数」ならびにその背景となる環境因子としての「性感染症教育」、「住居環境および家族の性への意識」、「デート・性交渉場所」への対策が特に重要であると考えられた。「都市都会」のモデルとして、中絶率は比較的低いものの多機関協働はそこまで進んでいない千葉市において、対策プログラムを試験的に実施した。

その結果、比較的多機関協働が進んでいない千葉市においても、釧路市における結果を参考として、「性交渉人数」、「家族の性への意識」への対策としての保護者向けの講座の実施などの対策案の有用性が示され、また、現状の対策から一歩進んだ対策が千葉県八千代市をはじめとして実践されることとなった。

このように「都市都会」における各キーワードをもとに各地域において多機関を集め、課題の共有をし、その地域のNPOの活動をボトムアップする形で施策の検討をし、実施体制の構築を行った。

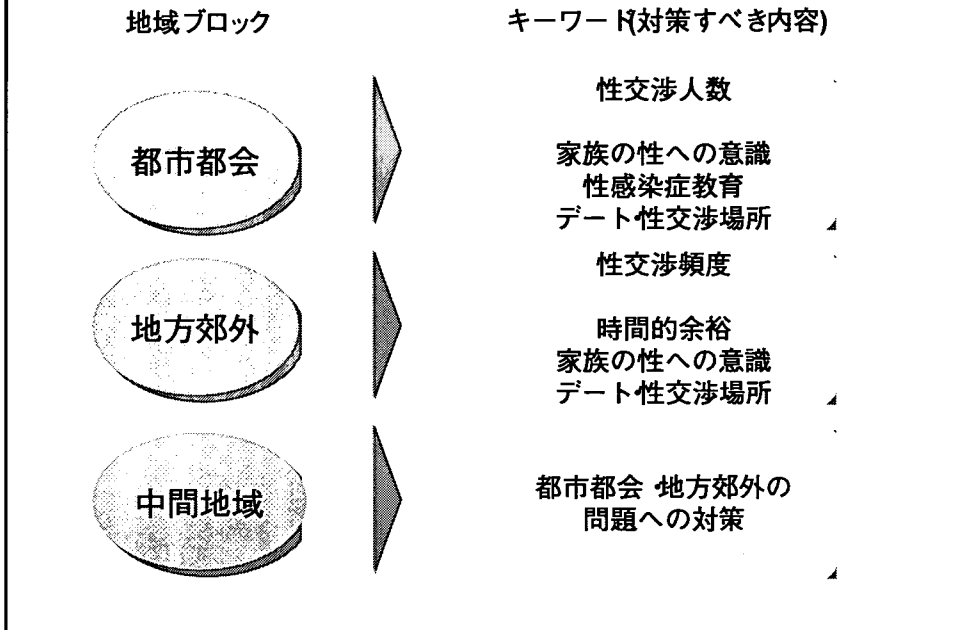
別途提示の支援ツールの利用を含めた同様の手法で「中間地域」を含めた各自治体において当該地域の実情に応じた青

少年の性の問題への対策案が立案・実行されるものと考えられる。その際に、データの収集・共有やリピーター等のハイリスク集団への対策等全国的な対策も同時に行われることが望ましい。

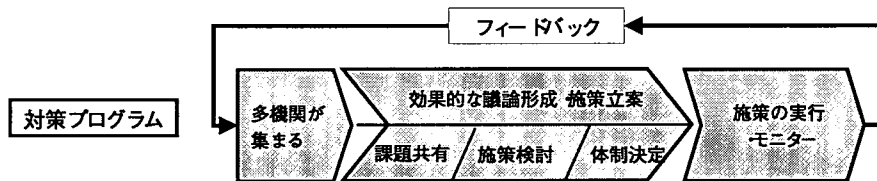
## 謝辞

本研究は日本誕生学協会の大葉ナナコ氏をはじめ多方面からの御協力を得て行われました。感謝を表します。

図A.1 平成17年度・18年度研究から抽出されたキーワード



図B.1 今回の研究概要



地域	中絶率	連携	パイロット・スタディ				
			○	○	○	○	△
釧路	高	有	○	○	○	○	△
			事前打合せ	Love Project in 946	青少年活動拠点センター	関係者検討会	Love Project in 946 参加者アンケート 2次検討会
千葉	中	低	○	△	○	○	△
			関係者検討会	関係者検討会	千葉市シンポジウム	関係者検討会	千葉市シンポジウム 参加者アンケート

### 図C.1.1 千葉関係者検討会 参加者

行政	千葉県総合企画部男女共同参画課
行政	千葉県健康づくり支援課
教育関係	千葉東高校 教諭
行政・医療機関	千葉県衛生研究所
医療機関	千葉医療センター
学生	千葉大 学生
学生	千葉大 学生

### 図C.1.2 千葉シンポジウムプログラム

◆開催のご挨拶 10:00～10:20

・ご挨拶

日本誕生学協会 理事長 大葉ナナコ)

当シンポジウム開催の背景について

日本医療政策機構 副代表理事 近藤正晃(ジェームス)

◆基調講演 10:20～12:00 \*質疑応答を含む

テーマ 思春期外来より～子どもたちの心と体 性の現状～」

講師 いえさか産婦人科医院 副院長 家坂清子)

◆分科会 13:00～16:00

分科会① 地域全体での情報共有 & アクションプラン作り～議論から行動へ～」

講師 大葉ナナコ)

分科会② 娘たちとのコミュニケーション術～セルフケア力と自尊感情を高めるNLP～」

講師 ユール洋子)

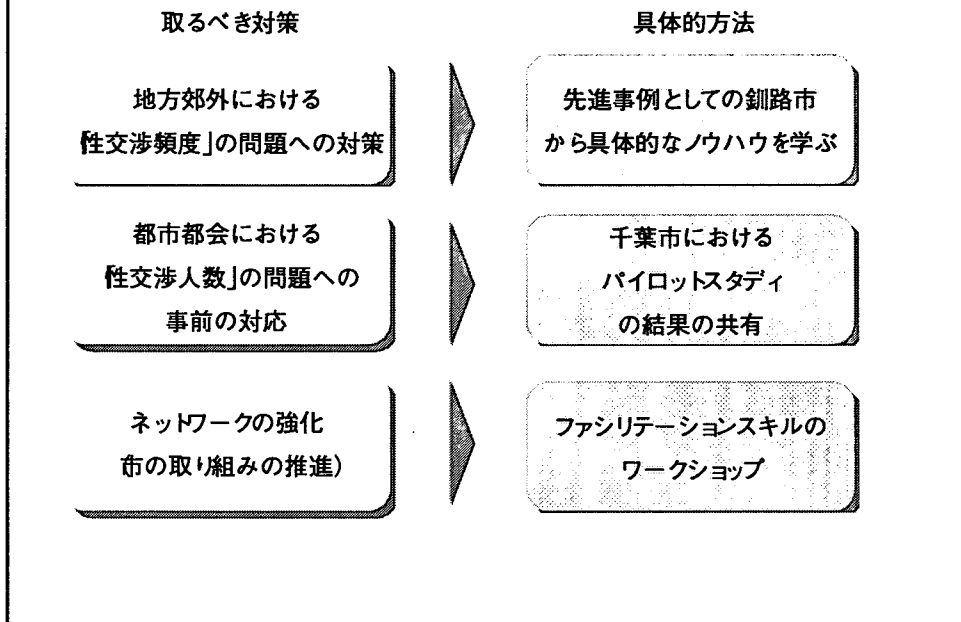
分科会③ 息子たちとのコミュニケーション術～親子コーチングスキルと本音の伝え方～」

講師 君塚由佳)

分科会④ 親にも気持ちがある～親のネットワークづくりのためのアサーティブネス～」

講師 鶴島夕子)

図C.1.3 八千代市におけるパイロットスタディ



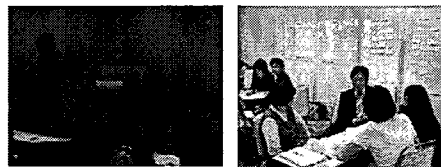
図D.1.1 シンポジウム (母代の性) の開催結果

日時 2007年12月16日10:00~16:00  
 場所 ホテルプラザ菜の花大会議室他  
 来場者 約70名



分科会内容概略

分科会① 多機関協働によるアクション  
プランとともに各自が明日からできるこ  
とを確認



分科会② 娘に対する親の心構えや話  
し方についてのワークショップ

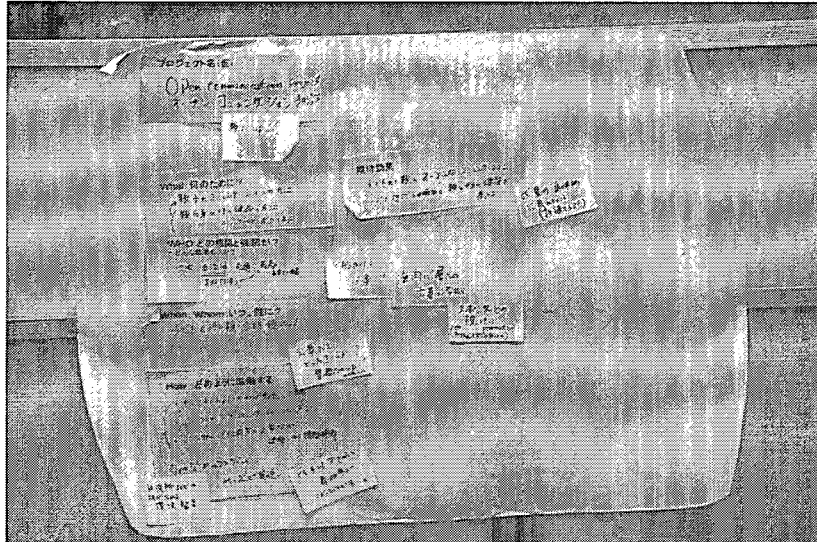
分科会③ 息子とどう向き合うかについ  
てのグループワーク



分科会④ 各家庭の違いを通じた、親と  
しての10代の性との向き合い方の話し  
合い

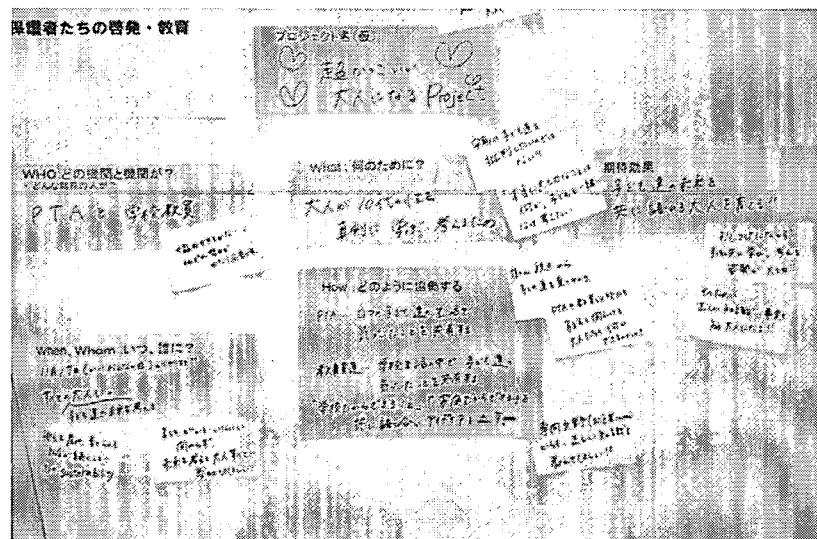
図D.1.2 分科会①から出されたアクションプラン

保護者たちの啓発・教育



図D.1.3 分科会①から出されたアクションプラン

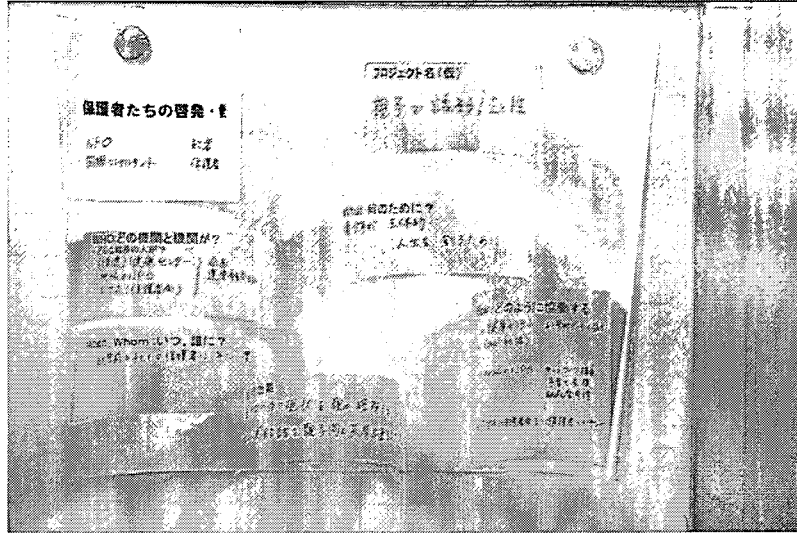
保護者たちの啓発・教育





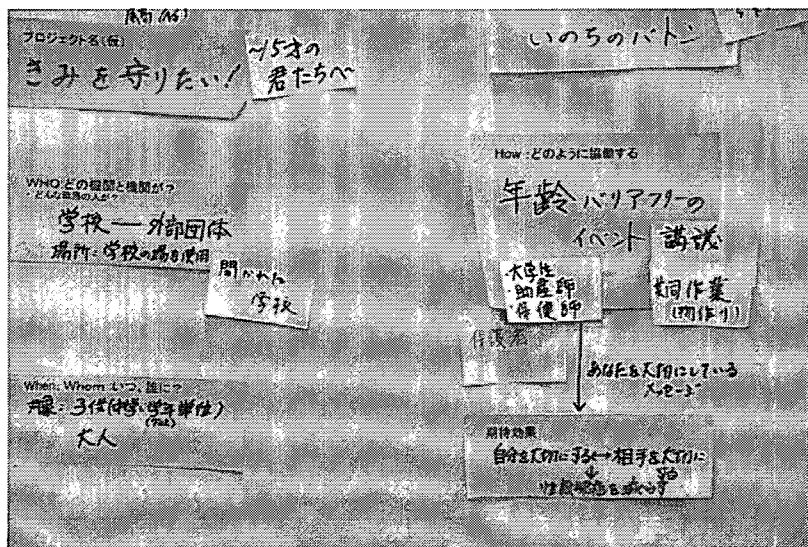
図D.1.4 分科会①から出されたアクションプラン

保護者たちの啓発・教育



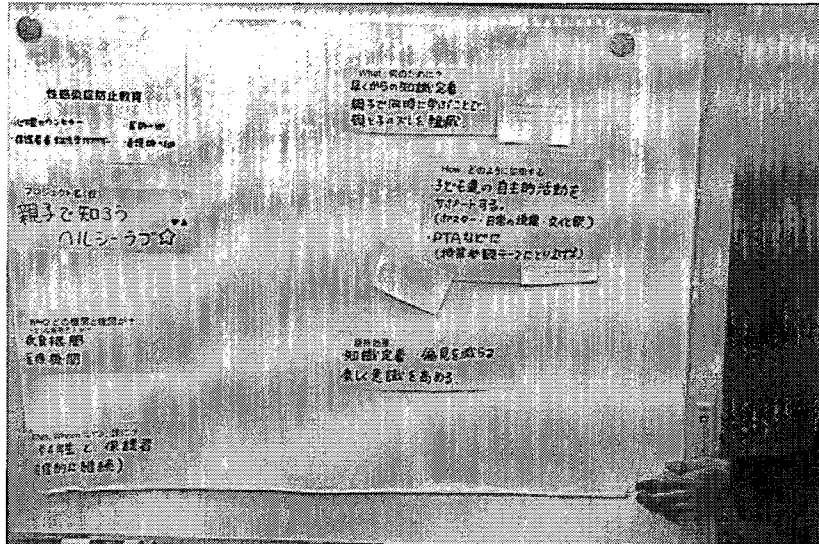
図D.1.5 分科会①から出されたアクションプラン

性感染症教育



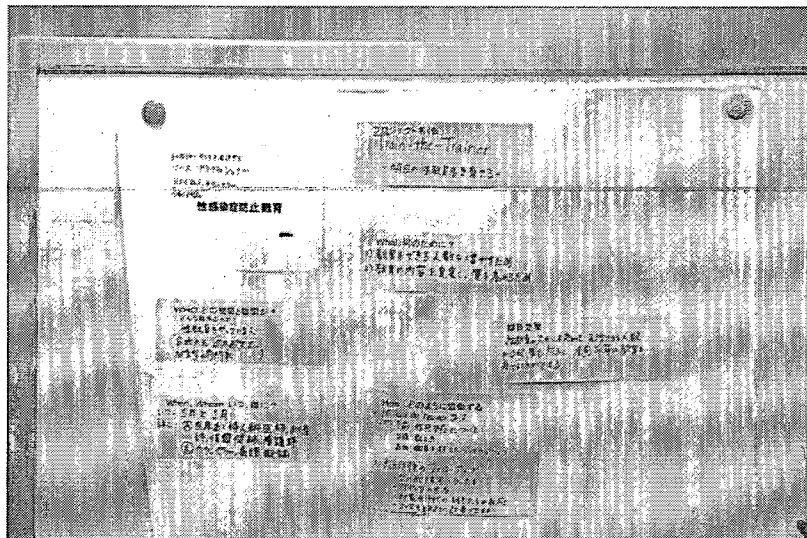
図D.1.6 分科会①から出されたアクションプラン

性感染症教育



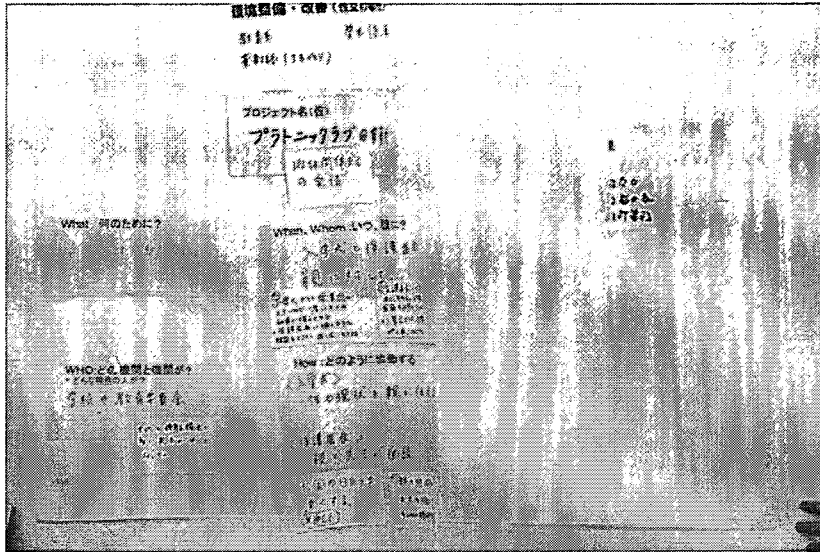
図D.1.7 分科会①から出されたアクションプラン

性感染症教育



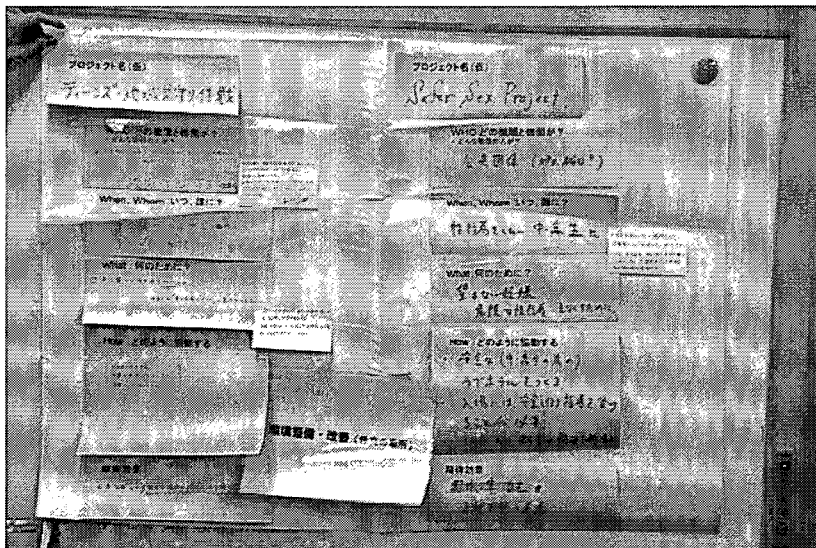
図D.1.8 分科会①から出されたアクションプラン

性交渉場所



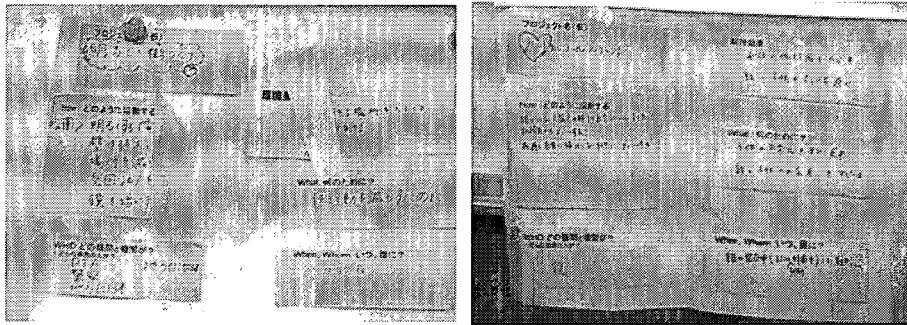
図D.1.9 分科会①から出されたアクションプラン

性交渉場所



図D.1.10 分科会①から出されたアクションプラン

性交渉場所



図D.1.12 シンポジウム アンケート結果(属性)

1-1 性別

男性	女性	無回答	総数
8	34	1	43
19%	79%	2%	

1-2 年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	無回答	総数
2	11	5	11	8	5	1	43
5%	26%	12%	26%	19%	12%	2%	

1-3 地域

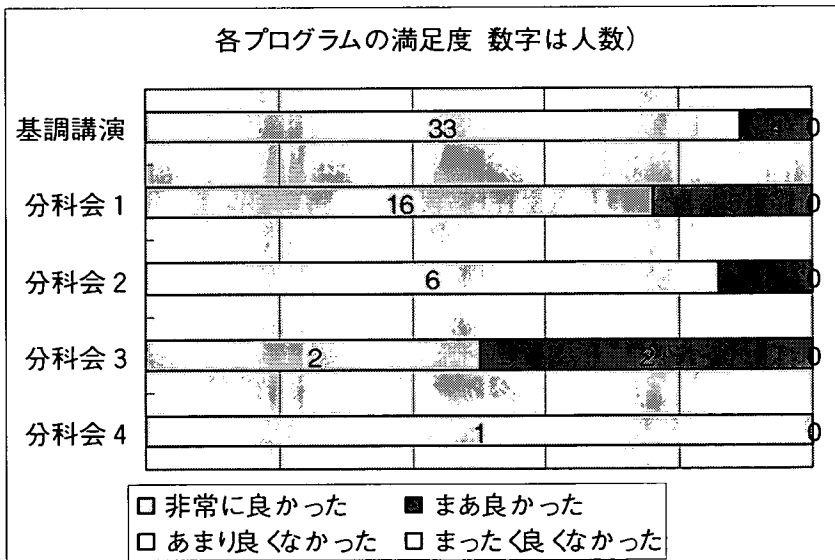
千葉市	千葉県 (千葉市以外)	千葉県外	総数
19	12	12	43
44%	28%	28%	

図D.1.13 シンポジウム アンケート結果 (属性)

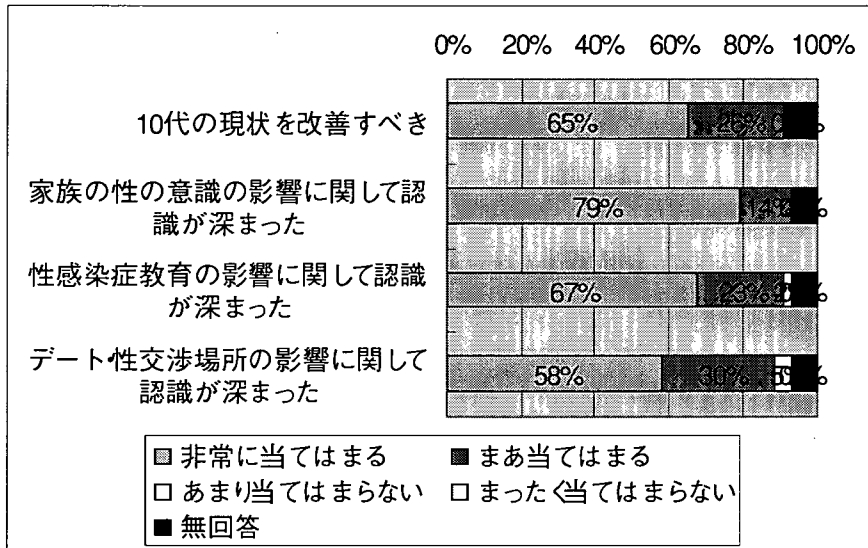
1-4 立場

立場	人数
学生	10
医療機関	8
NPO(子育て)	4
教育機関	2
行政	2
保健所・保健センター	2
主婦	2
NPO(医療)	2
NPO(男女共同参画)	2
NPO(まちづくり)	1
政治家	1
その他	4
無回答	3
総数	43

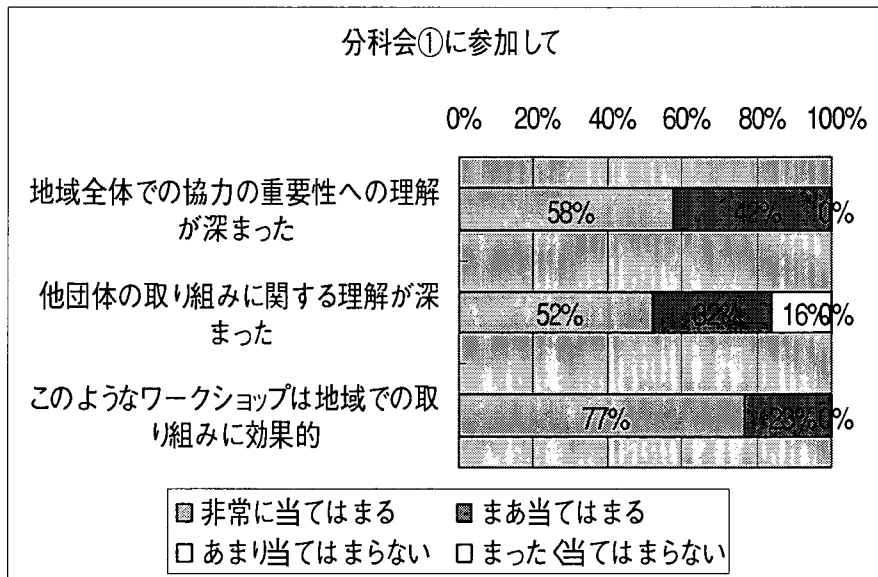
図D.1.14 シンポジウム アンケート結果 (満足度)



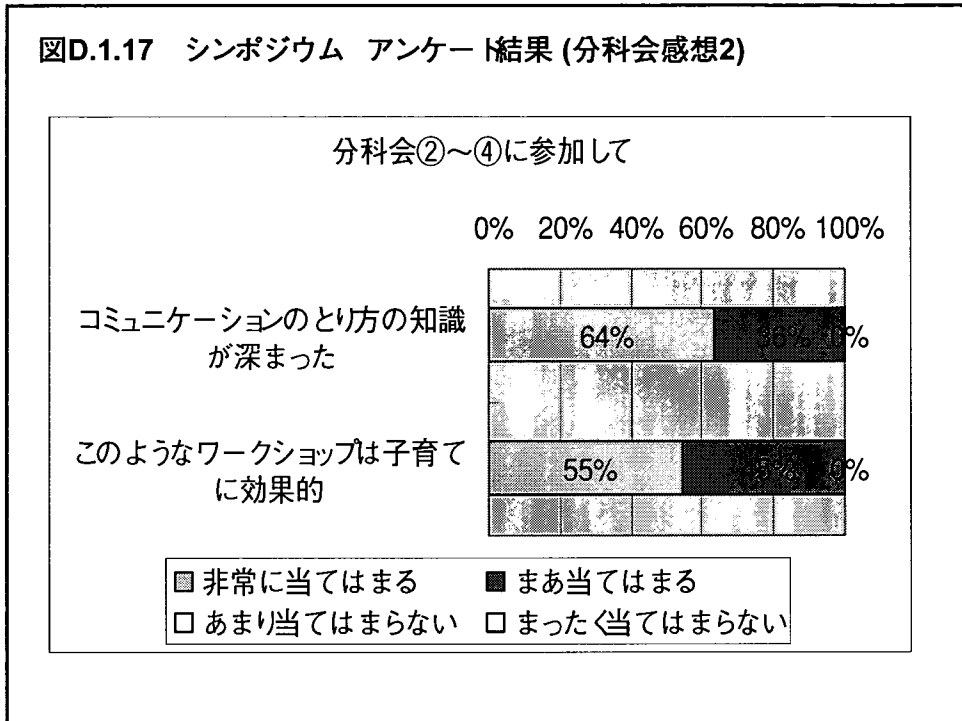
図D.1.15 シンポジウム アンケート結果 (10代の性の問題について)



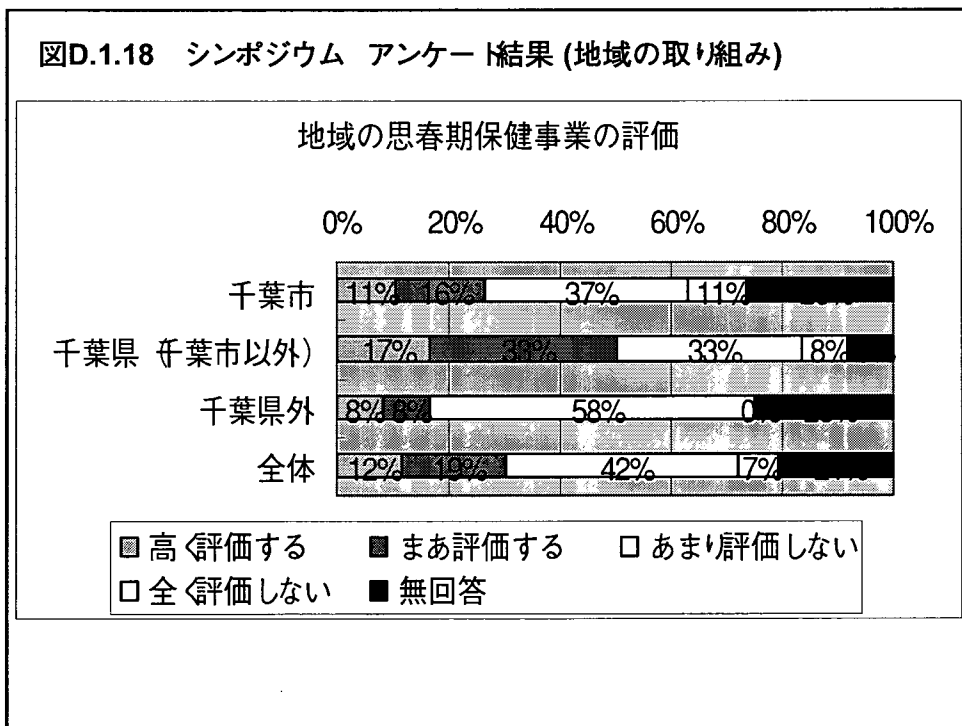
図D.1.16 シンポジウム アンケート結果 (分科会感想)



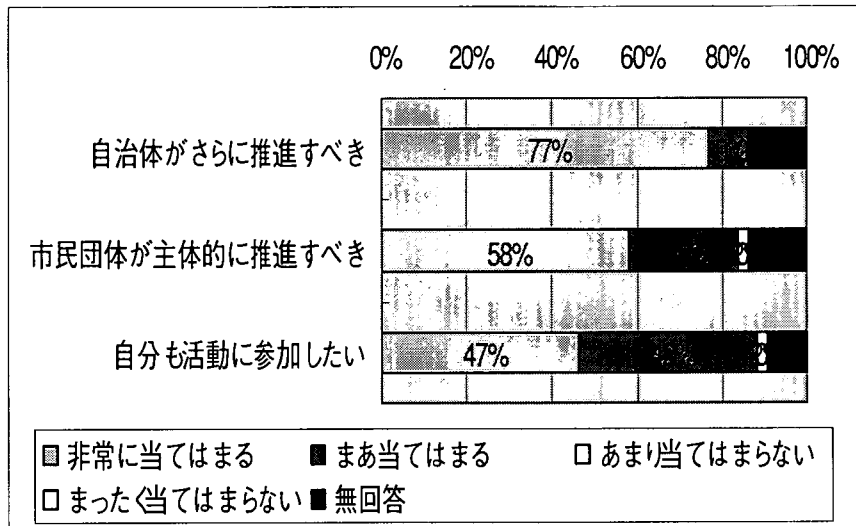
図D.1.17 シンポジウム アンケート結果 (分科会感想2)



図D.1.18 シンポジウム アンケート結果 (地域の取り組み)



図D.1.19 シンポジウム アンケート結果 (地域の取り組み2)



図E.1.1 保護者向け事業の具体的方策

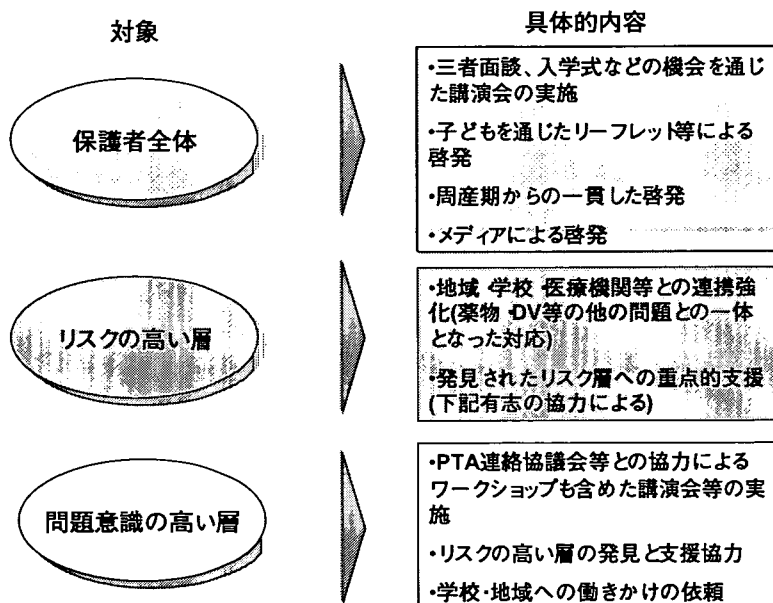




図 D.1.21 シンポジウム アンケート結果（自由記入欄）

ワークショップを受けて、具体的にこうしてみようと思うことはなんですか。

性	年代	立場	参加分科会	ワークショップを受けて、具体的にこうしてみようと思うこと
男性	20	学生	分科会①	自分が保護者になった際に、できるだけ先生方に協力すること。提案すること。
男性	20	学生	分科会①	親子間のメール・電話のやりとりをすすめる
女性	20	学生	分科会①	周りにいる興味のある学生と何か具体的にできることはないか考えてみようと思った
女性	30	その他/不明	分科会①	誕生サロンの開催回数を増やして、保護者のスイッチを押して回りたいと思いました
女性	50	医療機関	分科会①	草の根運動の1人の力として
女性	20	医療機関	分科会①	十代の思いを知ることから始まるのかなと思うので、知ることから、守ることを伝えようと思います
女性	不明	教育機関	分科会①	様々な場面を捉えて、性に関する情報提供その他をしたいと思います。まずコミュニケーションでしょうか…。
男性	20	学生	分科会①	ワークショップの話を友人たちにも広めていきたい
男性	40	医療機関	分科会①	今後の八千代ネットワーク会議の充実を図ろうと思った
男性	40	NPO(まちづくり)	分科会①	連携のきっかけづくり
女性	50	主婦	分科会②	自分のニーズは何かをちゃんと考えてみようと思った中では、親だから子どもの全てを(というか知識的に)知っていたと思っていたが、それは現在無理！身の程を知り、お互いに知り合う気持ちと優しさを持っていたい
女性	40	主婦	分科会②	なるべく否定的な言葉を使わないようにしようと思いました
女性	50	その他/不明	分科会②	娘や家族との会話はあまり意識されたものではありませんでしたが、少し意識的にしようと思いました
女性	40	医療機関	分科会②	コミュニケーションのとり方を変えてみようと思いました
女性	30	その他/不明	分科会②	気付く、慈愛、無否批の意識。ネガティブをポジティブに変える
女性	40	その他/不明	分科会②	ユーモアをもって、子どもの話を聞いていくこと
女性	40	その他/不明	分科会②	子どもたちへの言葉づかい(肯定的にする努力)
女性	50	NPO(男女共同参画)	分科会③	自分と向かい合い、自分は何を伝えたいか
女性	40	NPO(男女共同参画)	分科会③	自分のニーズは何かをちゃんと考えてみようと思った
女性	40	その他/不明	分科会③	子どもの心を聴く、看ることを試してみようと思った(how toでなく)。とても心の深いところに届くワークショップ、ありがとうございました

図 D.1.22 シンポジウム アンケート結果（自由記入欄）

保護者に対する講演会やワークショップで提供して欲しい情報など、保護者向けの事業に関し、自由なご意見をお聞かせください。

性	年代	立場	参加分科会	保護者向けの事業に関する意見
女性	50	NPO(子育て)	分科会①	人権教育(CAP的なもの)、親向けの性教育
男性	40	NPO(まちづくり)	分科会①	問題点や課題を把握しきれていないので、なんとも申し上げられない状態です。
女性	50	主婦	分科会②	情報を得た保護者からそれをきく時間のなかった保護者などにどのように伝えていくかが課題と思います
女性	40	主婦	分科会②	学校への出張講演会などをできるのであれば、PTA連絡協議会などを通してPRしてほしい
女性	40	医療機関	分科会②	他の分科会にも参加してみたかった、また次回も同じものを入れて欲しい
女性	30	その他/不明	分科会②	こういったコミュニケーション学
女性	40	その他/不明	分科会②	十代の男の子供もいるので、次は息子とのコミュニケーションをぜひ近いうちにまた講演会を開いてほしいです。
女性	40	NPO(男女共同参画)	分科会③	親自身の性に関する価値観を問い直すような取り組みが欲しい
女性	40	その他/不明	分科会③	ぜひ、10代の子を持つ親に、10代の性の実態を伝えて欲しい

図 D.1.23 シンポジウム アンケート結果（自由記入欄）

その他 10 代の性の問題に効果的な取り組みに関し、自由なご意見をお聞かせください。

性	年代	立場	参加分科会	その他意見
男性	20	学生	分科会①	もう少し一般の保護者の方に参加して欲しかった
男性	20	学生	分科会①	10代の子も引き入れて議論すると面白いだろう
女性	20	学生	分科会①	午前中参加できなかったの、これまでに行われた具体的なアクションとその成果が知りたいです
不明	60	NPO(医療)	分科会①	基調講演は具体的で大変良かった。中学の養護教諭向けに、同じ話をシテ欲しい
女性	50	NPO(子育て)	分科会①	CAPの中学生プログラムを受けて貰いたい(人権と性について考えられるから、自分を大切に思えるから)
女性	不明	教育機関	分科会①	時々関係者が話し合う(情報交換)機会を作れるといいのかなと思いました
男性	40	NPO(まちづくり)	分科会①	問題点や課題を把握しきれていないので、なんとも申し上げられない状態です。
女性	50	主婦	分科会②	千葉市で中学2年生に思春期講座が企画されているが、全中学で実施できたらと思います。
女性	40	主婦	分科会②	もっとたくさんの大人が今日のような話を聞けるような工夫を皆が考えなければと思う
女性	50	その他/不明	分科会②	学校や、PTAなどを通して学校で開催できると良いと思います。開催について情報を行き渡せるところが大事だと思います
女性	40	医療機関	分科会②	10代に直接ではなく、親への働きかけが必要であることが分かりました。親に対する活動を増やして欲しいと思います。
女性	30	その他/不明	分科会②	私の住んでいる地域にもお願いしたい
女性	40	その他/不明	分科会③	学校(中学)でも、オーストラリアのような性感染症、望まぬ妊娠について話をしてほしい。友達と同じ情報を共有することは大切と思う

図 D.1.20 シンポジウム 分科会前アンケート結果

参加分科会	立場(~として)	分科会への期待
分科会①	若者の悩みをサポートする立場から(心の相談室運営)	近年の若い人たちの動向について学べれば
分科会①	助産師を目指す看護学生	様々な立場の方と話すことで、性教育に取り組みたいという気持ちをさらに大きくしたい
分科会①	カウンセラー	地域で関われば
分科会①	(不明)	①在宅医療問題について研究している中で、家族関係、家族力について何らかの示唆・情報が得られればと思い参加させて頂きました。 ②他にカウンセラーをしておりますので、その関連して情報収集目的
分科会②	上に男2人と女一人19歳の娘をモツ親として	つい子ども扱いしてしまう。また、それを望んでいるのだろうかとか甘やかしている様な気がする。このままでいいのかなと感じています。照れてしまって面と向いては伝えにくいことでも、何らかの方法で伝えられないかと…ヒントが見つければいいと思います
分科会②	小学生2人の娘の母親として	これから思春期を迎える子どもに対する心構えを学びたい
分科会②	長女・長男2児の母親の立場	NLPを通してよりよいコミュニケーションの仕方
分科会②	2人の娘の母の立場から	NLPを使ってどのようなコミュニケーションがとれるのか知りたい
分科会②	長男・長女2人の子どもをもつ母親として	エネルギーが高い娘(小4)との接し方について。高校生の長男がだらけており、それをみている娘にどう説明して良いか？娘は1対1だと堂々と意見が言えるが、複数になると尻込みしてしまう。いくらほめても、自己評価が低いため、高めてあげるにはどうしたら良いのか？ものすごく私の顔をうかがっている。その対応
分科会③	中2の息子の母親としての立場から	コーチングという考え方は具体的にどのようなものなのか知りたい
分科会③	(不明)	男の子がありませんので女の子の違いとか知りたかった
分科会③	2人の息子の母親であり助産師	息子との具体的な接し方・接するに当たっての知識・男の子へのメッセージ・男の子をもつ親へのメッセージ
分科会③	中2の息子を持つ母親の立場から	性(交)について、誰から、いつ、どのように話せばよいか？(本を渡す？父親は照れて駄目？) 性感染症・望まぬ妊娠は、生きていく上でとても必要な情報なのできちんと伝えたいが、「おどし」でなくどうやって伝えたらよいか

図 D.1.11 シンポジウム 分科会① 結果(明日から始めること)

No.	あなたが明日から始めることは？
1	性教育に意識の高い大学生とピアエデュケーションの可能性について探りたい
2	興味があってもくることができなかった友人に今日学んだことを伝える・将来医師として(小児科志望なので)十代に医学教育をする
3	相談室に来る10代の人たちに、一緒に考えよう性について、と言おう
4	お正月に親戚の子ども・親に語る(身近からピアエデュケーション)
5	思春期保健事業をこれからも推進していくために、まず保健師個々が責任があることを自覚すること。ネットワークを組んで事業を進めていける力量をつけること。保護者と学び合う機会を作ること
6	子どもを監視するようなことはやめようと思った！ 子どもの話を聴ける大人を作ること。今の私の活動(CAP)を続けること。子どもが「自分は大切な人」と思えるプログラムを届けていくこと。子どもが「自分を好き」と思える関わり方はどんな風にしたらよいか、親と一緒に考え続けていくこと。
7	まずはやはり、きちんと避妊をしなければならぬと思いました。あと、公園とかで、夜もしいかがわしい行為をしているカップルをみても、自分ではきっと注意とかできないと思います。そこで、自分ができることは、近くを追って、プレッシャーをかける？酷い場合警察に通報する？などができそうだと思います。
8	(教育関係者) 入学式や保護者会の提案がありましたので、保護者に対する取り組みが保健講演会以外にはありませんでしたので考えてみたいと思いました
9	あやしい10代のカップルを見つけたら、注意をする。これから、医師・看護師になる友達が多いので、友達に今日の話をし、まずは「問題意識」を持つ人を増やせたらいいなと思いました
10	1月に協力を依頼されている中学1年対象の性教育授業に本日学んだことを生かし、生徒の心に響く授業内容にする。次回の広報誌原稿に「生と性」を扱ったものを掲載する。子育て支援課の虐待ネットワークをいかし、「性」問題もとりあげてネットの足がかりとする
11	(医師) いろいろな立場の人とのネットワーキングをつくり、ゲリラ的な性教育(全ての年代の人への)をする
12	行政の保健師ですが、すぐに人間関係という点にはアクセスしづらいので、とりあえず、セーファーセックスプロジェクト？ではないですが、安全な性交渉、正しい知識を伝えていくことを続けていこうかと思います。とりあえず高校生にアプローチしているので、今後は中学校、少しずつ小学校！？かな。考えていきます。
13	子どもたちに「いのちの力」を伝えること。地域の保健所との連携を深める
14	お母さんにメールを送ろう！ お父さんに電話をしよう。(看護学生)
15	子どもたちや、いつか親になるかも知れない若い人たちに、自分の知識を伝える(病気についても)。家庭環境を大切に。誕生学アドバイザー・会社員・保護者
16	どうやったら、自分を守るか伝え(プリントを作る)、十代で病院に来た方たちとの対話のきっかけを作る
17	誕生学サロンの中で、保護者の方に、子どもたちの性行動、意識は家庭での関わり方が重要であることを伝えて回りたいと思います。たくさんのお母さん、お父さんのスイッチを押しまくれるように開催回数を増やしたいです。
18	今日のグループワークの話を、すでに講師や教師として活躍している友人たちに伝えたい。その中で、子どもたちの自尊心の成長が大切であることを教えていきたい。それと、子どもの性の話の流れ(年齢や二次性徴の話、性病の話の組み立て方)を友人たちと話して行きたい。(教職課程学生)
19	子と親の間のコミュニケーションを活発にする(メール・電話など) (医学生)
20	最新の情報を得るよう心がける。仲間を増やしていく。(保健師)
21	19歳という年齢だからこそ伝えることのできる性の情報を広く提供したい。自分自身、中・高時代と大学に入ってからではだいぶ性に対する意識が変わったと思うので、昔思っていた気持ちを忘れずにいたい。友人や後輩などの相談を受けたい。(看護学生)
22	現在の婦人科外来での現状(性感染症の実態)をより多くの人たちに伝えていきたい。子どもたちへの伝言も含め、PTA、親たちになるべく多くの方にお話ししたい
23	家族(親)への教育。小学生からの性教育。地域、NPOとの協同
24	(ナース・プラクティショナー) 患者さんには言えても、身内には言えなかった(性感染症などについて)。今夜にでも、年下のいとこや、おばと、性の話を始めようと思決意した。そうやってひとりひとり教育していくことで、大きな改革にもつながっていると思うし、私も学ぶことがあるのだと思う。Train-the-trainerとプログラムは、探して、なかったら大学院時代のadolescent medicineの先生に連絡して、勉強しようと思った。
25	10代の性の健康の現状に関するデータに基づいた正確な情報発信を続ける。
26	自分の行動や言葉が、子どもの自己肯定感を高める方向になっているか考える。地域のことに気を配る(日頃忙しくて、関わりを持つことができていないため)
27	今日のセミナーの成果を周囲の人に伝える→仲間捜し→勉強会など→地域・行政との接点を見つける→協同してアクションを起こす！
28	個人的にできることは、対象者の話の中に必ずsexの話を入れて啓蒙に役立てる(若い人たちとの対話の中で)